

## 田辺先生の習作発見

このたび、本学国語国文学会編集『樟蔭国文学』第49号（2012年3月15日発行）に、田辺聖子氏が樟蔭女子専門学校在学中に書いた未発表の短篇小説「十七のころ」の全文が掲載されました。同小説は、田辺聖子氏の自伝的小説『しんこ細工の猿や雉』（文藝春秋1984）において、樟蔭女子専門学校在学中に文芸部の機関誌『青い壺』に掲載した小説としてタイトルが登場するものの、同誌には別の作品が掲載されており、その存在自体が疑問視されていたものです。2010年6月に田辺聖子氏から本文学館に寄託された資料群のなかに同小説の直筆原稿（B5サイズのルーズリーフ5枚）があり、田辺聖子氏の了承を得て、このたびの公開に至りました。

作品は、終戦後の大阪を舞台に、洋裁学校に通う17歳のおとなしい少女「泉」を主人公とするものです。「泉」のまわりには、若者の心の葛藤を理解できない両親と、戦後の新時代を謳歌しているかのように多忙な学生生活を送る友人が対照的に配され、両親の庇護の下に続けられる単調な生活に満足できず、新しい世界に憧れながらも第一歩が踏み出せないでいる「泉」の様子が描かれています。執筆当時、田辺聖子氏は17歳か18歳。まさに同世代の心情を描いた作品と言えます。また、作中で展開される大阪弁の会話や主人公が口にする和歌など、のちの田辺作品に通ずるものがあり、田辺文学の原点を垣間見ることができます。

本文学館では、秋の特別企画展において、直筆原稿の展示を予定しております。いましばらくお待ち下さい。

